

平成28年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、自主性・自立性を備え、時代の変化やグローバル化に対応できる、心身ともに健全な、国家社会に有為な人材を育成する。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<p>平成28年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>教務部 ○学習意欲や検定への意欲の高い生徒に対する課外や補講等の充実が図れた。 ○授業公開を行い、他教科の授業もお互いに観察し合い、指導力向上や効果的指導の参考とすることができた。 ○課題の提出状況や成績のふるわない生徒に対して、長期休業時や放課後を利用して、補習等が行われた。 ○審査心得の再確認ができた。 ○ボランティアは、地域の要望に応え、協働的に活動することができた。</p> <p>【次年度への課題】 ○生徒の実態に即し、分かりやすい授業の工夫と、教員の指導力向上に向けて公開授業を有効に活用する。 ○学習意欲の低い生徒に対する長期的・継続的指導を行う。 ○継続的に内規の問題点について検討する。 ○生徒の実態や本校の特性に合わせた教育課程の編成を考える。</p> <p>○ボランティア活動で学んだ内容を生徒同士がフィードバックできるように道徳の授業を有効活用する。</p>	<p>学力の向上</p>	・わかる授業を推進し、学力の向上を図る。	C		
		・授業時間の確保と授業内容の充実を目指す。	B		
		・課題の提出や予習復習を徹底させて、家庭学習の習慣付けを行う。	C		
		・教員間の授業見学や指導法の研修等を通して、指導法を工夫改善し、指導力を高める。	B		
		・学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。	C		
		・資格取得のための課外授業の実施に努める。	A		
<p>進路指導部 ○生徒の進路希望に即した進路ガイダンス等の行事・面接、課外指導が適切に行えた。 ○進路決定率は、就職98.9%、進学98%（1月17日現在）であり、継続指導中である。 ○インターンシップは、22事業所において59人の生徒が参加し、貴重な学びの場となった。</p> <p>【次年度への課題】 ○求人受付をスムーズに行う体制作り。 ○早期に生徒が就職準備に取りかかれるように、就職選考の時期やあり方の見直しを検討する。 ○必要に応じ、学年間の引き継ぎを行う。</p>	<p>安定的な定員の確保に向け、 商業教育の活性化と広報活動に 努める。</p>	・広報紙・ホームページ等で商業教育の広報活動を積極的に推進する。	A		
		・地域と連携した商業教育の推進を行う。	A		
		・効果的な体験入学を実施する。	B		
		・メディアの情報に敏感に対応し、情報の共有化を図る。	A		
		<p>生徒指導部 ○朝の立哨指導で挨拶の励行指導を行った。○遅刻防止強化月間を設け、ある程度遅刻者数を減らすことができた。○毎日の巡回指導を実施できた。 ○外部からの苦情や、問題行動に対して、生徒集会を開き注意喚起できた。 ○計画的なカウンセリングが実施できた。</p> <p>【次年度への課題】 ○全学年で遅刻カードを活用するよう共通理解を図る。○毎日の巡回指導をしても、校内での器物破損や喫煙が目立った。問題行動の未然防止のために、LHRや道徳等を有効活用し、過去にあった事例等を取り上げ、「何をしてはいけないのか」「問題行動を取るとどうなるのか」等を指導する。○無断遅刻者に関しては、朝のSHR後、保護者に連絡を入れて迅速に対応し、保護者と連携して基本的生活習慣の確立を図るようにす</p>	<p>進路指導の充実</p>	・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのキャリアガイダンス機能の充実に努める。	B
				・キャリア教育を発達段階に応じて適切に実施することにより、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。	B
・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。	B				
・ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。	B				
・教職員による求人の確保及び開拓を推進する。	A				
・就業体験（インターンシップ）をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。	B				
<p>特活部 ○円滑な学校行事運営を実現できた。 ○文化祭実行委員の中から企画委員を募り、早い段階から生徒間で十分な協議ができた。 ○各部活動の入部者を増やす具体的努力が不十分であった。</p> <p>【次年度への課題】 ○体育祭では、競技の安全性を再考し、前回の反省を活かした運営を心がける。 ○クラスマッチについては、種目の再考と教員の係分担の見直しを図る。 ○学校行事の運営については、生徒間の協議を一層活性化させる。 ○野球応援の練習方法の見直しと一般生徒への事前指導を行う。</p>	<p>生徒指導の充実</p>	・基本的生活習慣の確立に努める。	C		
		・服装頭髪等の身だしなみ指導の徹底を図る。	D		
		・問題行動や事故の未然防止に努める。	B		
		・特別指導の充実改善を図る。	B		
		<p>図書部 ○昨年度は、水害で図書購入できなかった。しかし、今年度は順調に購入できた。 ○図書の無断持ち出しがないように徹底したい。 ○図書日より予定どおり発行できた。</p> <p>【次年度への課題】 ○新刊本を購入して、今後も生徒の読書の興味関心を高めたい。○図書の無断持ち出しを防止する。 ○図書室の利用率を高める方法を考える。</p>	<p>特別教育活動の活性化</p>	・生徒会及びHR活動の活性化に努める。	B
				・部活動の活性化に努める。	B
・文化祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。	A				
・ボランティア活動を推進して、奉仕する喜びを知る。	B				
<p>渉外部 ○PTA総会の出席率は昨年同様43%であった。 ○PTA支部研修会はかつては全支部で行われていたが、最近では5支部になっている。また支部会費の徴収は各支部独自で行っているはずだが、どうしても学校側が窓口になりがちであった。 ○PTA研修視察旅行は好評で、バス1台分ではまかないきれなくなっている。</p> <p>【次年度への課題】 ○体育館の改修工事が終わったので次年度はPTA総会日程を、例年通り5月に第二土曜日に実施したい。 ○PTA支部研修会での保護者や教員の負担が多い場合は実施についての見直しが必要である。 ○PTA研修視察旅行のバスを2台に増やしたい。○広報誌「鬼怒」の原稿依頼を紙ベースから合理的な方法に改める。○スクールバス代の値上げについて、消費税10%になった際の見直しが必要。</p>	<p>安心・安全な学校づくりの推進</p>			・心身ともに健康な生徒を育成する。	B
				・自主的に安全を守る能力を養う。	B
		・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。	B		
		<p>保健厚生部 ○保健室の利用者が昨年度よりも減少した。 ○検診後の再検査など個別指導を行い、健康の保持増進に努めることができた。 ○ピアエデュケーションを取り入れたの生教育講座を実施できた。○避難訓練を滞りなく実施できた。 ○ストーブの使用者講習会を開き防火安全指導を行えた。○水質・環境検査を予定通り実施できた。</p> <p>【次年度への課題】 ○安全計画・保健計画・危機管理マニュアル・避難訓練・各種検査等の実施計画の作成を行う。 ○エアコン・ストーブの使用について、教員間の更なる共通理解を図り、適切に使用できるようにする。</p>	<p>コミュニケーション能力の育成</p>	・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。	B
				・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養	B
				・挨拶の励行とビジネスマナーの徹底	B
<p>情報管理部 ○ホームページ更新を随時滞りなく行えた。特に部活動紹介のページの充実を図ることができた。○データの保守及び管理をトラブルなく行えた。○成績処理と管理を円滑に行えた。</p> <p>【次年度への課題】 ○ホームページにおける部活動紹介の内容の充実を図る。○成績処理システムにおける内容の充実に努める。</p>	<p>ビジネスマナーの修得に務める</p>			・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。	B
				・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養	B
				・挨拶の励行とビジネスマナーの徹底	B

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
教科	国語	授業に意欲的に取り組む態度を育てる。	A	B 【達成状況】 ○ノート点検をほぼ確実にを行うことができ、生徒の集中力向上に寄与することができた。 ○授業時にスピーチ等を実施し、生徒のコミュニケーション能力の向上に努めることができた。 ○長期休業中の課題として短歌・俳句に取り組みせ、生徒の感性を磨くことに取り組むことができた。 ○長期休業中の課題を出し、回収・点検まで行うことができた。 【次年度の課題】 ○定期考査での平均点を上げるために、具体的な方策を考える必要がある。 ○漢字検定への取り組みを改善する必要がある。 ○長期休業中の課題を、期限までに出させるよう、指導を工夫していく必要がある。	
		場に応じた適切な表現力を身に付ける。	B		
		俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指しながら、自らの感性を磨き、書くことをとおして相手に伝える表現力を育てる。	B		
		家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。	B		
	社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。 発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。	B B	B ○視聴覚教材や新聞、インターネット等の様々な資料を活用し、生徒の興味・関心を惹くような授業展開を心がけた。 ○授業内容の確認プリントや時事プリントを使用したり、ノート点検をこまめに実施し基礎学力の定着をはかるよう努めた。 【次年度の課題】 ○発問を工夫し、多くの生徒に発言の機会を与える授業展開が課題である。
		教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行う。	A	
	数学	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの例題を通し、体験的に理解できるように工夫する。 課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。 各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。	B B B	B 【達成状況】 ○実験的にアクティブラーニングを取り入れ、生徒関心が授業に向いた。 ○課外活動を積極的にに行った結果、学力向上の傾向が見られた。 【次年度の課題】 ○アクティブラーニングの継続的な実施方法・検証方法等については今後の課題である。 ○課外活動の欠席指導も今後の課題である。
		基礎的な学習の向上を図る。	商業科・情報ビジネス科において、希望に応じて課外を実施する。	B	
		科学に対する意識・関心を高め、科学的な思考力を身につける。	身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。	B	
	理科	物理実験室・改修済化学実験室の利用を高める。	実験室・屋外を利用して、より具体的でわかりやすい授業を行う。	B	B 【達成状況】 ○ 課外について、希望者いなかったので実施することができなかった。 ○ 顕微鏡などは、近隣の高校からの借用で実験を行った。その後、理振の予算で揃えることができた。 ○ 4月より、化学実験の利用が可能となった。しかしながら、実験器具が不足で十分できなかった。 【次年度の課題】 ○ 実験材料を揃え、内容を精査し、実験の回数を増やしたい。 ○ 来年度担当者交代するため、実験室の整理整頓に努めたい。 ○ 3月下旬の引き継ぎの準備をしたい。
		体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。 できる喜びを実感できる授業実践に努める。 体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。 よりよい体育授業の実践を図る。	C B B B	
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	A	
英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに小テストを実施し、基礎学力強化を目指す。 課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。	B B	B 【達成状況】 ○提出物等の確認を細かく行うことにより、未提出者が減少した。 ○成績不振生徒に対し補講を実施した。課題提出を課すことにより理解不足生徒への対策を行った。 ○全商英検3級合格率68%と目標数値を達成できた。上位級受験者に対し、課外講座を実施した。 ○音読や発表などのパフォーマンステストを積極的に取り入れることにより、座学授業とのメリハリをつけることができた。 【次年度の課題】 ○パフォーマンステストで身に付けた表現を授業内で継続して使用させる機会を与え、知識の定着をはかる。 ○英語（外国語）という意識を捨てさせ、生徒が自然に英語を口にしたり、耳にしたりできるようになるべく英語で授業展開する努力を継続する。	
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外を実施する。	A		
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	LL教室や音声機材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング能力を強化する。 学期に1回パフォーマンステストを実施し、実践的なコミュニケーション能力を育成する。	B A		
	家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。 プリントやワークを活用して、基礎的な知識を定着させる。 実習授業において、個別指導や補講を行い、全員に作品完成の達成感を持たせる。 C		B 【達成状況】 ○食物分野では、限られた器具を工夫しながらの実習ではあったが、実習を通して生活の向上を図るための基礎技術を身に付けさせることができた。 ○プリントやワークを点検することで、知識の定着を図ることができた。 ○個別指導及び補習により、全員が作品を完成させることができ、作品完成の喜びや、達成感を持たせることができた。 ○家庭生活の課題を見つけ、改善に向けた活動に取り組ませることができたが、生徒の取り組みに差が出てしまった。 【次年度の課題】 ○家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善向上に取り組めるよう、課題解決学習の充実を図る。 ○教材や授業展開を工夫する。
商業	学力の向上を図る。	学力向上のために検定試験全体で、60%以上の合格を目指す。そのための課外と平常時の課外を実施する。 科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして学力向上に努める。 商業教育の理解を深め、地域と連携した商業教育の推進を図るため体験入学や出前授業を実施する。	B C B		
商業	商業教育の広報活動に努める。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。	C	B 【達成状況】 ○検定全体としては60%以上の合格を達成している。 ○教材研究や指導の工夫を考え、生徒が理解出来ているかの確認が不十分な面が見られる。 ○授業研究の機会をつくることが出来なかったが、各科目担当者で授業及び教材などの意見交換を行っている。 ○出前授業の実施校が17校と増え、確実に中学校に認識されてきた。商業教育の一端を知ってもらう機会になっていると思われる。その反面、商業科教員の負担が増えているのも事実である。 ○商業研究でLINEスタンプを作成したことで新聞等に取りあげてもらえる機会が増え、結城市役所とのコラボとして「まゆげった」のLINEスタンプ作成で結城ケーブルテレビや新聞等で話題になり、情報発信が出来た。 ○各科目であいさつを中心にビジネスマナーを指導している。 【次年度への課題】 ○授業の質の向上を図ること及び生徒の学習意欲の向上を目指す。 ○出前授業の拡大に伴う教員側の負担増をどうするか。	

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
教務	生徒の学力の向上に努める。	基礎学力の定着とわかる授業の展開を心掛け、学習意欲を喚起する。	B	【達成状況】 ○学習意欲や、検定に対する意欲の高い生徒に対する課外や補習は充実させることができた。 ○授業公開では、自由に他教科の参観ができ、アドバイスし合う等お互いの参考にできた。 ○検定の取りこぼしや、課題等の提出状況に応じて補習等を行った。 ○先生方の協力により、殆どの授業が振り替えられた。 ○教科によっては、補習や課題等の指導が行われた。 ○考査監督心得の再確認ができた。 【次年度への課題】 ○学習意欲の低い生徒に対する指導のついて長期的・継続的に進める学習指導の手立てを考える。 ○生徒の実態に即し、分かりやすい授業の工夫と、教員の指導力向上を目指し、公開授業を有効に活用する。 ○継続的に内規の問題点について検討する。 ○生徒の実態や、本校の特性に合わせた教育課程の編成を考える。
	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。	A	
	教育課程の編成に努める。	本校の目指す学校像や生徒のより良いキャリア実現のための教育課程を編成する。	B	
	内規の検討をする。	本校の現状をふまえ、改正した内規の問題点を話し合う。	B	
	学業不振による転退学者の減少を目指す。	成績不振の生徒のために補習や課外を計画的に行う。	B	
	心の教育担当：奉仕の精神や社会貢献への関心を高め、社会連帯の精神を育てる。	結城特別支援学校との交流事業や地域イベント等におけるボランティア活動を推進し、社会に奉仕する心を育む。	B	
	ボランティア活動を1学年全員に体験させ、豊かな心・地域に貢献する心を育む。	各ボランティア活動の事前・事後指導を確実にを行い、道徳の授業との連携を図る。	C	
	※心の教育			
生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。	B	【達成状況】 ○挨拶に関しては立哨等で呼びかけている。部活の生徒が見本となっている。先生方が挨拶を返してくれないというアンケート結果があったので、意識してほしい。 ○服装チェックカードを活用した段階的な指導ができていない。今後どうするか検討する。誰が指導しても効果が上がる方法はないか検討すべきである。 ○遅刻カードを利用した段階的な指導ができていないようである。9月の遅刻防止強化月間はある程度の効果があった。 ○予定された講話や講習会は実施した。原付バイクの事故が3件、自転車の事故が2件あった。 ○毎日の立哨・巡回指導が実施された。外部からの苦情や、現在の学校の状況を集会等で話した。器物破損や校内での喫煙が目立った。 ○計画的にカウンセリングが実施できた。予約がない場合等、担当が気を使った。カウンセリングの結果がある程度、学年や担任に伝わるようにしたい。 【次年度への課題】 ○服装容儀に関しては、全職員で、複数で指導にあたる等、共通認識したうえで指導する。 ○問題行動の未然防止について、各LHR、道徳等で「何をしてはいけないのか」、「やったらどうなるのか」、「過去にあった事例」などを取り上げて指導していく。 ○遅刻防止の取り組みは、効果があったが、根本的なことでできることがあるのではないかと。例えば、朝のSHRの時に連絡なしでいない生徒に対しては、こちらから保護者にすぐ連絡して、安否を確認する。保護者との連携を密にして生徒の基本的な生活習慣の確立に努めるべきであろう。
	服装・頭髪等について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。服装チェックカードを活用し、段階的指導を行い、校則違反をなくすよう努める。	D	
	遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。	C	
	交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ	校外指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会・四輪車安全運転教室等を実施する。	B	
	問題行動を未然に防ぐ	全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。	B	
	教育相談活動の充実	教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実化を図る。	B	
校務分掌	特別活動			【達成状況】 ○円滑な学校行事運営を実現できた。 ○各部活動の参加者を増やす具体的な努力については十分とはいえなかった。 ○文化祭実行委員の中から企画委員を募り、早い段階から生徒間で十分な協議ができた。 【次年度への課題】 ○体育祭については、競技の安全性を再考するなど前回の反省を生かした運営を心掛ける。 ○クラスマッチについては、種目の再考と教員の係分担等の見直しを図る。 ○学校行事の運営については、生徒間の協議をより一層活性化させていく。
	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	B	
	部活動加入率50%以上と、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の参加者を増やし、意欲的な取り組みを促す。	B	
	部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。	部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。	B	
クラスマッチ、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	生徒間の協議を活発化させることで、学校行事の充実を図る。	A		
進路指導	進路指導の充実	生徒の個性に応じ、適切なキャリア教育を実施する。	B	【達成状況】 ○進路ガイダンス等の行事や面接・課外等の指導が生徒の進路希望を踏まえた適切な内容であった。 ○進路決定率は、就職が98.9%、進学が98%(1月17日現在)。未決定者については、継続指導中である。 ○求人については、企業訪問を実施し、好求人であったこともあり、前年以上の求人を確保することができた。 ○インターンシップについては、22事業所において59人が体験を行った。生徒にとって貴重な体験となった。 【次年度への課題】 ○求人受付がスムーズにできるよう体制づくりを検討したい。 ○就職選考の時期や在り方を検討し、早期に生徒が就職準備に取りかかれるようにしたい。 ○インターンシップのより充実をはかりたい。 ○必要に応じてそれぞれの学年で行ってきたことの引き継ぎができるようにしたい。
	進路ガイダンスの充実	進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などを適宜積極的に行う。	B	
	求人の確保及び開拓に努める。	企業訪問を行い、求人の確保及び開拓を推進する。	A	
	職業意識の啓発に努める。	就業体験(インターンシップ)など様々な活動をとらして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。	B	
	進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。	進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。	B	
環境整備	自ら率先して清掃を行う態度を養い、奉仕の心を育む。	教室のワックスがけ、モップ交換を定期的に年間4回行う。	B	【達成状況】 ○一般教室のワックスがけ、モップ交換等計画通り実施できた。 ○清掃について、概ねよくできた。 ○学期ごとの目標設定、環境衛生面での意識向上は、不十分であった。 ○第一学期は実施できたが、二学期は悪天候等で未実施であった。 【次年度への課題】 ○環境衛生面での意識向上を意図して、スローガン等工夫改善したい。 ○教室美化について、洗剤等工夫して改善に取り組みたい。
	環境問題等に関する意識の向上を図る。	学校周辺の空き缶・空き瓶・ごみ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせる。	B	
		学期毎の目標を設定して、環境衛生面での意識の向上を図る。	C	
		ゴミの分別をきちんとさせ、環境問題にも関心を持たせる。	A	
保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。	B	【達成状況】 ○昨年度より利用人数は減少。 ○内科検診で運動機能検査が入り時間が例年よりもかかってしまったが、他の検診検査は効率よく実施できた。また、検診後の再検査など個別指導も行い保持増進に努めることができた。 ○ピアエデュケーションを初めて実施。生徒達にとって大いに興味関心を引く内容で好評であった。 ○昨年実施できなかった防災避難訓練を消防および防災会社の指導のもと滞りなく実施でき、消火訓練の実体験もでき有意義なものであった。しかしAED講習が企画できなかった。 ○事前の使用規定配布やストーブの使用講習会を実施しおおむね適切に使用された。 ○水質、室内環境検査を計画通り2回実施できた。 【次年度への課題】 ○保健技師訪問時に指摘をされた安全計画・保健計画、危機管理マニュアル、避難訓練、各種環境検査などの適切な実施計画の作成。 ○エアコン・ストーブの使用について教職員の更なる共通理解と使用に努める。
		諸検診の効果的な実施に努める。	B	
		専門家による性教育を実施する。	A	
	学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練やAED講習会を実施するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。	D	
	学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。	B	
	水質検査および室内環境検査等を実施する。	B		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題		
校務分掌	図書	情報センターとしての図書室環境を整備する。更に、災害に応じて多方面に活用できるようにしておく。	わかりやすい蔵書の配置・親しみやすい装飾にも務め、図書室を利用しやすい環境を整備する。 原則として、長期休業中も開館し、生徒の図書室利用率向上に務める。	B	B	【達成状況】 ○今年度は、4月当初より順調に新書を購入することができた。 ○長期休業中でも、ほぼ開館することができた。進路指導等多方面の利用があった。 ○1年生全員に対し、授業中を利用し、オリエンテーションを実施した。 ○新書購入案内は、購入時期毎に廊下昇降口等に掲示することができた。 ○生徒及び教職員に対し、予定どおり購入希望調査を実施することができた。 ○生徒発行の「図書室だより」を発行することができ、多少とも図書に対する関心を高めることができた。 【次年度への課題】 ○ 近隣の高校とも連携を取りながら、さらに利用率向上の方法を模索したい。	
		読書指導と読書の推進を図る。又、洪水災害のため昨秋より中止になっていた新書購入を再開する。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。 新刊本をカラーコピーし、廊下・階段・昇降口に掲示する。 職員に対して購入希望図書の調査回数を増やすとともに、随時購入希望を受け付ける。 生徒発行の「図書室だより」で新着図書案内を行い、同時に図書に対する関心を高める。	B B B			
		PTA各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	PTA総会や授業参観への出席率が昨年度の43%以上になるよう工夫をする。 学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。 昨年度は水害のため自粛になったが、会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。 昨年度は水害のため自粛になったが、PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。	B B B			
		鬼朋同窓会の組織強化に努める。	副会長、常任理事の増員を検討する。	C			
		スクールバスの円滑な運行をはかる。また、来年度予想される消費税増税への対応を検討する。	スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。	B			
	情報管理	HPを通して、教育活動の公表に努める。	生徒専門委員会を活用し、ホームページの内容を充実させ、情報を発信する。	B	B	【達成状況】 ○ホームページの更新は、更新時期に合わせ不具合なく行うことが出来た。部活動紹介のページに関しては、関係職員等の連携のもと充実させたいと思う。システム全般に関しては、データのシステム上の保守および管理においては、大きなトラブルもなくおえることができた。あたりまえのことではあるが成績処理システムにおいても、不備なく行うことができた。 【次年度への課題】 ○ホームページにおける部活動紹介の内容充実と、成績処理システムにおける内容の充実にも努める必要がある。	
		HPの運営に伴うガイドラインの作成を行う。	県の運営要項に沿ったガイドラインの作成をする。	B			
		情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を、適正に管理する。	B			
		有線LANに伴うシステムの運用・保守に努める。	システムの変更等の際に、異常が出ないよう努める	A			
	学年	一学年	基本的生活習慣の確立に努める。	欠席・遅刻・早退を極力しないよう努力させる。高校生にふさわしい服装頭髪で生活させる。	B	B	【達成状況】 ○欠席・遅刻・早退については、特に2学期に数が増えてしまった。服装頭髪については、学年の先生方のご指導で、ある程度落ち着いている。 ○全体的に見れば比較的落ち着いた学習活動ができた。しかし、教科やクラスによって学習態度に差が出てしまったことは否定できないところである。 ○資格取得については、学年をあげて取り組むことができた。 ○進路意識を高めるための進路行事を企画し、運営することができた。挨拶の励行に取り組んだが、生徒への意識の浸透は十分ではない。 ○部活動の加入率は、学年全体の約半数にとどまった。 【次年度への課題】 ○生活態度全般（基本的生活習慣・学習態度）について、今後も指導を重ねていく必要がある。 ○進路行事における事前指導・事後指導のさらなる充実を図る必要がある。
			基礎学力を身につけさせ、授業環境の質の向上に努める。	朝ドリルの実施、チャイムでの着席、ケータイの授業開始前の提出、私語・居眠り等をなくす等の指導を徹底する。	B		
			資格取得に主体的・自主的に取り組ませる。	1学年で取得すべき資格について、商業科の指導を学年をあげて支援する。	B		
進路意識を高め、コミュニケーション能力の育成に努める。			ガイダンス及び面談の複数回の実施。挨拶の励行や言葉遣い等のマナーについてもその大切さを喚起していく。	B			
充実した学校生活をつくらせる。			部活動への加入率と定着率を高め、学年行事も積極的に企画していく。	C			
二学年		基本的生活習慣を身につけさせる。	・欠席、遅刻、早退等を極力しないよう努力させると同時に、家庭との連携を密にする。 ・高校生にふさわしい服装・頭髪で生活させる。	C	B	【達成状況】 ○1年次からのルーズな生活を引きずる生徒も多くいて、1学期に欠席・遅刻が激増した。2学期以降の生徒指導部主催の遅刻指導や、特に多い生徒に対して保護者召還指導を行ったことにより、特定の生徒の遅刻・欠席の増加に歯止めがかかった。 ○定期的な進路ガイダンスや、インターンシップやオープンキャンパスへの参加を促す指導を行ったが、進路意識を明確にできたかという点では十分ではない。 【次年度への課題】 商業科4クラスで、一部の生徒や一部の授業で私語や居眠り等がみられた。時宜に応じて学年集会を開き、注意喚起したが大きな改善には至らなかった。特定の生徒に対する個人的な指導が必要である。	
		進路意識を高め、コミュニケーション能力の育成に努める。	・ガイダンスや個人面談を複数回実施すると同時に、インターンシップやオープンキャンパスに積極的に参加させ進路を明確にする。 ・挨拶と正しい言葉遣い等のマナーについて励行させる。	B			
		授業環境の質の向上に努める。	・チャイムでの着席の励行とケータイの授業開始前の提出の徹底。 ・授業中の私語や居眠り等をなくす指導を粘り強く行う。	C			
		資格取得に自主的・積極的に取り組ませる。	・2学年で取得すべき資格について、商業科の指導を学年をあげて支援する。	B			
		情報ビジネス科の特長をいかした指導の実現。	・各種検定試験の合格率80%を実現する。 ・高度資格取得にチャレンジさせる。	B			
三学年	社会人となることを意識したマナーの定着とコミュニケーション能力の向上をはかる。	鬼怒商の最高学年としての「プライド」を意識し、挨拶・服装・言葉遣い等模範生となるような指導をする。これまで通り家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず、学年一丸となって指導を行う。	B	B	【達成状況】 ○挨拶の遂行だけは、教員からだけでなく生徒自ら率先してできたと思われる。 ○生徒指導については、残念ながら0とはいかず、数件指導したが、これまでと比べると全体的には落ち着いた。また担任と保護者が連絡を密にすることで信頼関係は保たれた。 ○模擬面接等において先生方と連携し、生徒自ら適性に合った進路選択を実現し、ほぼ目標値を達成できた。 ○2年次以降はずっと変わらず、チャイムが鳴ってから準備を始めるなど、授業に臨む意識は低いまま終わってしまった。 ○検定に関しては、商業科は35%と目標を大幅に下回ったが、最終学年として卒業間際まで検定に対する意識を持ち続ける指導は継続できた。情報ビジネス科は、上級資格の合格目標値をほぼ達成できた（日商2級5、全商英語1級3、1級3種以上27）。情報ビジネス科の生徒個々の努力は、大いに評価できる。 ○情報ビジネス科は、資格取得や進路実現の面で、学科を設置した当初の特長を大いに生かした結果を残すことができた。 【次年度への課題】 ○日頃からさらに生徒の把握と情報収集を密に行い、迅速かつ的確な対応を学年一体となって行う。 ○服装・頭髪指導等を他学年と連携し、学校一体となって行っていく。		
	キャリア教育の集大成として、自分の意志で進路を決定し、進路決定率100%を実現させる。	これまでの進路ガイダンス・面談等を通じて得た自己の適性に合う進路を選択し、決定に導くための進路関係の行事を月2回実施する。	B				
	授業環境の向上と生徒全員の卒業を実現させる。	学校生活が充実して終わるためには、残り少ない授業に「チャイムで始まりチャイムで終わる」ことを徹底させ臨ませる。	C				
	商業科の生徒が、最後まで各種検定試験に臨む意識を盛り上げる。	各自が目標とする各種検定試験の合格率80%を実現する。全商1級3種目合格者20名を目標とする。	C				
	情報ビジネス科の特徴を活かした高度資格取得の目標を達成させる。	日商簿記2級10名、ITパスポート10名、全商英語検定1級5名合格を目標とする。	B				

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分